

【ポスター発表】

新人医療ソーシャルワーカーの抑うつ状態に関する研究

○ 岡山県立大学大学院 倉本亜優未 (9255)

杉山 京 (日本福祉大学・8498)、竹本与志人 (岡山県立大学・4927)

キーワード：新人医療ソーシャルワーカー、抑うつ状態、K6

1. 研究目的

医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）は、医療機関において患者や家族の生活の視点から援助を展開し、保健・医療・福祉の連携において重要な役割を担っている。しかしながら現在、特に経験年数3年未満の新人MSWの離転職が増加しており、新卒で就職したのち離転職に至ったMSWを対象としたインタビュー調査（山川 2009）では、彼らが職場の人間関係や教育・支援体制が不十分な中で心身の不調を引き起こしていたことが報告されている。抑うつ状態は心身の健康障害のほか休職や退職との関連も指摘されており、離転職を防止するうえで極めて重要な要因であるが、新人MSWを対象に定量的な方法を用いて検討した研究はほとんどない。そこで、本研究では新人MSWを対象としたアンケート調査を実施し、新人MSWの抑うつ状態の実態を明らかにすることを目的とした。

2. 研究の視点および方法

本研究は、37都道府県内の2,767ヶ所の医療機関に勤務する常勤専任の新人MSWを対象に無記名自記式の郵送調査法による質問紙調査を実施した。医療機関は、各都道府県庁ホームページに医療機関一覧が掲載されていた37都道府県（2020年6月末時点）の中から、当該機関のホームページ等においてMSWが在籍すると考えられた2,767ヶ所（精神科病院を除く）を選定した。そして、医療機関の管理者宛に調査依頼書（趣旨説明等を含む）等を送付し、調査協力（調査票の配付）への承諾が得られた医療機関の管理者を通じて当該機関に勤務する新人MSWに回答を依頼した。なお、調査期間は2020年8月～同年11月とし、調査項目は調査対象者の属性、所属機関の状況、K6の日本語版等とした。なお、K6は抑うつ状態や気分・不安障害のスクリーニングを目的に開発された6項目から成る尺度であり、各項目に対して「全くない：0点」～「いつも：4点」で評価する。得点が5点以上の場合、気分・不安障害などの抑うつ症状を呈する可能性がある判断される。

分析では、まず分析対象者のK6の平均得点についてMSW以外を対象とした先行研究と比較するため、1サンプルのt検定を行い、有意差の有無を確認した。次いで、分析対象者の属性および所属機関の状況を独立変数、抑うつ状態を従属変数としたMIMICモデルを構築し、WLSMVを推定法に構造方程式モデリングを用いてモデルの適合度と各変数間の関連性を検討した。なお、モデルの適合度指標にはCFIおよびRMSEAを用い、すべての解析における有意性は5%有意水準とした。

3. 倫理的配慮

本調査の実施に際して、調査対象者に調査の趣旨、匿名性の保障、調査協力は自由意思（任意）であること等について文書にて説明し、調査票には本調査への参加の同意を確認する欄を設けた。本調査は、2020年7月17日に岡山県立大学倫理審査委員会の審査・承認を得て実施し（受付番号：20-28）、本報告にあたっては共同研究者の許諾を得た。

4. 研究結果

2,767ヶ所の医療機関のうち2ヶ所から宛先不明のため返送があり、420ヶ所から調査協力の承諾が得られた。調査票は420ヶ所の医療機関に勤務する新人MSW 632人に配付し、回答は504人から得られ（回収率：79.7%）、分析には当該項目に欠損値を有さない462人の資料（調査対象者の73.1%；回答者の91.7%）を用いた。K6の平均得点は、24点満点中7.5点（標準偏差：5.3、範囲：0-23）であり、得点が5点以上の人数は310人（67.1%）であった。K6の平均得点について、先行研究との有意差の有無を1サンプルのt検定を用いて分析した結果、例えば一般病棟においてターミナルケアにあたる看護師を対象とした研究（門田ら 2011）における得点（6.4点）との比較では、新人MSWの得点の方が有意に高かった（ $p < 0.001$ ）。また、MIMICモデルのデータに対する適合度は、 χ^2 (df) =175.225 (149)、CFI=0.993、RMSEA=0.020と統計学的な許容水準を満たしていた。パスの推定値およびその有意検定の結果、抑うつ状態に対して有意な関連が確認されたのは、年齢（ $\beta = -0.166$ ）、介護支援専門員資格の所持（ $\beta = 0.125$ ）、スーパーバイザーの有無（ $\beta = -0.148$ ）、地域医療支援病院での勤務（ $\beta = 0.309$ ）、MSWの所属人数（ $\beta = 0.163$ ）、感染症病棟の担当（ $\beta = 0.051$ ）であった。なお、抑うつ状態に対する説明率は14.6%であった。

5. 考察

本研究では、K6を用いて新人MSWの抑うつ状態を確認したところ、調査対象者の67.1%において抑うつ症状を呈する可能性があるとして判断され、一般病棟においてターミナルケアにあたる看護師よりも新人MSWの方がK6の平均得点が有意に高く、新人MSWが看過できない抑うつ状態にあることが明らかとなった。また、新人MSWの属性および所属機関の状況によって抑うつ状態が異なる可能性が示唆された。今後はインタビュー調査等を実施し、新人MSWの業務負担の実態等をふまえて属性以外の関連要因を明らかにしていくことが課題である。

※本研究は、公益財団法人日本科学協会の笹川科学研究助成（新人医療ソーシャルワーカーの職務継続に関する探索的研究；2020年度；研究代表者 倉本亜優未）により助成を受けて実施した。

【引用文献】山川敏久（2009）「医療ソーシャルワーカーの退職に至る要因——入職1年以内に退職を決めた事例」『東北福祉大学紀要』33, 119-128.

門田真小代・香月富士日（2011）「一般病棟におけるターミナルケアにあたる看護師の精神的健康——一般住民データとの比較」『名古屋市立大学看護学部紀要』10, 15-22.